

ヒント！① 自然体験活動の《プログラム》

“プログラム”という、活動内容やそれにかかわる具体的な事項を時間に沿って並べた日程表だと思ってしまいがちですが、自然体験活動のプログラムは、単なる日程表ではなく、活動の目的や方法、内容などが一体になったもの全体を指します。言い換えると、プログラムとは、単に“何をするか”だけでなく、“何のために”“どのような方法でやるか”という視点が必要だということです。ですから、自然体験活動のプログラムとは「こうでなくてはならない」というものはなく、目的、対象、予算、スタッフの人数などによって、場所も時期も内容もまったく異なったものになります。「火を起こして飯ごうすいさんしなくちゃ」「テント・シュラフで寝なくちゃキャンプじゃない」など思い込んでいませんか？一日かけてのハイキングが活動の中

心であれば、食事はお弁当でもよいのです。バンガローに宿泊してもよいのです。また、日本には四季という豊かな自然があります。東京にも身近な自然を体験できる場所があります。固定観念を捨てて、自分たちの目的にかなった、自分たちの地域の特徴を活かした活動プログラムを作りましょう。大切なことはプログラム全体として何をねらいにするかということです。くれぐれも、活動種目が単に羅列してあるだけのプログラムで、時間内に活動をこなすことが第一になってしまわないように…。

また、天候など自然の状況や、子どもたちの興味関心によって、時にはプログラムを変更して、臨機応変にならざるを得ないことも認識しておきましょう。

ヒント！② 自然体験活動の《組織と指導者》

活動の規模によって組織の形態や必要な指導者の数・役割は異なります。具体的には、活動全体の企画や運営の指揮をとる人、活動に必要な事務を行う人、実際のプログラムを進行し生活面を管理する人、特定の野外活動についての専門指導者、さらに子どもの精神面での支援や指導を行うスタッフなどが考えられます。そのほかにも、医療スタッフや移動・運搬スタッフ、さらに、子どもたちにとって身近な存在となる若者たちの役割も重要です。

それぞれの人には、自然の中で集団を引率する力(リーダーシップ)や、具体的なプログラムの進行やレクリエーション指導の技術、生活面の管理をする知識や技術、野外活動の技術、子どもの気持ちに寄り添うカウンセリングマインドなどが求

められます。

また、野外教育における組織で大切なことは、「ホウ・レン・ソウ」だと言われます。「報告」「連絡」「相談」のことです。全体を指揮するディレクターや活動の専門指導者、グループリーダーなどそれぞれの役割を明確にし、かつ、組織(集団)として共通のねらいを持ってプログラムに取り組むことが大切です。

国立青年の家や国立少年自然の家、東京都府中青年の家、区市町村の教育委員会や、民間野外活動団体が主催する、野外教育・自然体験活動の指導者のための講習なども多数開催されています。子どもたちの自然体験をより豊かにするために参加されてはいかがでしょうか？

ヒント！③ 自然体験活動の《事故と安全～リスクマネジメント》

自然体験は自然の中で行うので、活動場所(川や海、山、岩場など)に潜む危険性や、天候の急激な変化などによる事故と背中合わせです。事故の未然防止のためにも、十分な下見によって危険を確認し予知しておくことが大切です。その上で万が一の事故に備えて指導者の配置や緊急連絡の体制を整えておくことが必要です。また、子どもたちに対して

個人でできる範囲の備えをさせておくことも防止につながります。さらに、野外活動にも対応した保険制度を活用することも一般的になっています。

事故の未然防止や事故が起きたときの対策を十分に準備した上で、子どもたちに、自然を知り自然に親しみ、思い切り楽しみながら成長するような機会を提供していきましょう。

※文部科学省生涯学習局青少年課「青少年の野外活動の振興に関する調査研究者会議報告」(平成8年)を参考にさせていただきました。

東京都では、子どもたちの豊かな体験活動のためのさまざまな情報を提供しています

◆東京都青少年奉仕活動・体験活動支援センター
電話またはファクシミリによるお問い合わせ
電話:03-5320-6853
ファクシミリ:03-5388-1734

◆「東京都生涯学習情報」ホームページアドレス
<http://www.syougai.metro.tokyo.jp/>